

# シーズンイントレーニングとまぼろしの滝巡礼の沢

## 丹波川 小常木谷支流火打石谷沢

日 程 2017年4月29日（土） 前夜発日帰り

メンバ CL 斎藤（記録）、SL 飯野、長谷部

行動時間 余慶橋6：10→30m大滝10：20→大岩CS3段9m11：50→  
前飛竜山手前稜線13：30→（岩岳尾根経由）余慶橋下山16：30

距離 12.0km 最高高度 1910m 累計高度 (+) 2,249m 累計高度 (-) 2,315m

天 気 晴れ時々曇り

### 行動記録

今シーズンの草鞋初めとして奥秩父の火打石谷をチョイスしてみた。ここは小常木谷が有名であり、21年前に訪れた思い出の谷である。その支流に火打石谷があるのだが学生時代「まぼろしの滝」があると聞いていてずっと気になっていた。名渓の支流もまた名渓の法則を信じ、昨シーズンのベストオブサワーの飯野さんと先日クラックのご指南でお世話になった長谷部さんと共に火打石谷を遡行した。

前半は見事なゴルジュ地形だが大して難しさはない。一ヶ所だけトラバースが嫌らしくロープを出す。残置のロープは変なところに掛かっており恐らく釣り師が付けたものだろう。

この時期の沢は新緑が綺麗で谷が明るくて気持ちがいい。谷川や上越の沢も好きだが奥秩父の沢も趣があって素晴らしい。途中タヌキが顔を出したりして可愛かった。



今日はシーズンインに最適だなと思いながら登っていると大滝の手前に10m2条のナメ滝が出てくる。今までロープを使うほどの滝もなかったので「シーズン初めのトレーニングに登ってみるか」と確保してもらひながら取付く。いやいや、これが見た目以上にしょっぱい。中段の鑄び付いて折れ曲がったハーケンがあるので、万ーフォールしたら確実に抜ける代物だ。タワシでスタンスを擦りながらしばらくハイステップが決められず腐

ったハーケンでそーっとバランスを取りながらやつとの思いで上に抜ける。シーズンインでいきなり本気モードになってしまった。後にも先にもここが一番の核心だったと思う。

この先に30m大滝があり直登は出来ないので右から巻き、うまい具合に拾っていくとちょうど落ち口に下降できる。すると目の前にはあの「まぼろしの滝」が太陽に照らされ右岸より見事に降り注いでいるのだ！なるほどこれがまぼろしと言われていた滝なんだとメンバーでしばし見惚れる。水量は多くはないものの支流の滝としては立派なものである。ここで感動のフィナーレなら万々歳なのだがここから真のトレーニングが始まる。

ここからが長い！体力勝負である。長いゴーロ歩きを経て最後の連瀑帯に入るのだがここから一気に高度を上げる。ツメの藪こぎはないもののいい具合の急傾斜を登り切ると登山道に出ることができた。

あとは下山の岩岳尾根を下るだけなのだが、今回はシーズンイントレーニングも兼ねているので尾根下降もあえて長い方を選んで下山する。やはりまだ慣れていないのか脚にくる。でもこれをシーズンインにやっておくと今シーズンの沢はかなり違うはずだ。（と勝手に私は思っている。）

岩岳尾根の登山道は最終的に小常木谷と火打石谷の出合まで戻ってくる。そのまま沢を下降してもよいのだが左岸にも道が付けられているのでぜひこちらを利用してほしい。達成度が200%までアップすること間違いないだ！3人とも充実感満載で無事余慶橋まで戻り今回の遡行を楽しく終えることができた。

話は前後するが前泊はワイン通の長谷部さんと日本酒通の飯野さんを交えて楽しく飲んでしまった。帰りは3人とも奥多摩の銘酒「澤乃井」を買って満足して家路についた。

（記録・文 斎藤）

